

みんなの顔が見えるまち

人権シリーズ vol.19

安岐 人権感覚のアンテナって？

「人権侵害・差別が見えてくる」

「どうすれば人権・同和問題を自らの問題としてとらえることができるか。」この問題を解決するために、今年度のテーマは、『人権感覚のアンテナ』にしました。

私たちは「差別はいけない」ということを知っています。しかしながら人権侵害や差別が自分の課題であるとは考えにくいという現実があります。そこで、ビデオ視聴で問題提起をし、偏見や差別、人権侵害に対する日常の様々な意識や行動を見直すことで、人権・同和問題が自分自身の問題であることに気付いてもらうことにしました。

また、偏見や差別、人権侵害について話し合い、学び合うため



▲グループで討議を行う参加者

に、「差別される側にも問題がある」という意見・考え方」や「知らない」「見えない」「考えない」という「無関心さ」の問題について話し合いました。

人権感覚のアンテナを張って、私たちの日常生活における意識と行動を見直すことは、人権が尊重される共生社会づくりのための第一歩になるのではないのでしょうか。

次は参加者からの意見です。

● いじめとはいじめられる側が勝手に理由をつくり一方的に行われる場合が多い。いじめられる側には問題はないと考えてよいのでは。

● 小さなことにでも気付き、感じて、見つめていくことは、とても難しい。そのことに気付くためにもアンテナを張っておかないといけない。人権感覚は毎日の生活の中で磨かれていかなければ育たない。

● どんな人の心にも差別をする心はあると思う。が、今日のような学習会を重ねることによってうろこがはがれるように自分の心に気付くのではないだろうか。

文責・安岐教育事務所 永松

国東 地区じんけん学習会をとおして

国東では人権に関する学習をとおして、人権・同和問題の課題を正しく認識し、「差別のない人権を尊重するまちづくり」をめざすことを目的として、誰もが関係する身近な「高齢者の人権問題」をテーマに、特に「認知症」に対する理解や対応について学習しました。

主な意見 その1

- 一人暮らし（独居老人）が多い。介護が必要になったときが不安
- 自分の親が認知症になった場合、面倒をみられるか不安
- 誰もが認知症になる可能性がある。日ごろから心構えが必要
- もし家族が認知症にかかったら認めたくないとと思う。認知症を受けとめる心が必要では
- 若い人がもつと高齢者問題を勉強してほしい
- 高齢者本人がこうしたい、こうなりたいという気持ちをもってもらうのがよい
- など、自分の問題として捉えた意見が多く出されました。

主な意見 その2

- 明日はわが身を意識し、地域で対応すべき
- 声かけが必要、近所付き合いが大切、つながりを密にする
- 高齢者が高齢者をみているのが現実、ふれあいネットワークな



▲今回で4回目となる「高齢者の人権問題」について話し合う参加者(原地区)

- 仕事を辞めて看ることがなかなかできない、認知症に対する福祉の充実が肝要
- 地域全体で見守る、社会的にも恥ずかしいことではないと思われている
- 社会的責任や仕事がなくなると認知症が進むため活動の場をつくってあげる
- など、地域社会や行政に関する課題も出てきました。

また、「話し合った内容を今後に活かすようにしたい」、「本当の意味で高齢者が大切にされているだろうか？」と言う声も聞かれました。

文責・国東市生涯学習課 古河